



清瀬市立清瀬第三中学校 ◇◇一人一人が輝く三中◇◇

学校だより臨時号

〒204-0002

清瀬市旭が丘 1-262

Tel 042-493-6313



学校 HP QRコード

令和7年度 清瀬市立清瀬第三中学校 学校評価報告

学校経営計画に基づく主な取組と評価及び次年度へ課題と対応策

1 学校経営計画に基づく主な取組と評価

(1) 短期的な教育活動への取組と評価

<基盤>

安全・安心・安定して生徒が学校生活を送るために、落ち着いた規律ある授業態度、生活態度を考え、身に付けさせる。そのためのミッションとして、『あ・じ・み・こ・し』を学校生活の基盤となる「心構え」として徹底し、全教育活動に展開していく。

『あ・じ・み・こ・し』

あ・・・「あいさつ」気持ちの良いあいさつ

じ・・・「時間」時間を守る意識と態度

み・・・「身だしなみ」その場に相応しい身なり

こ・・・「言葉遣い」その場にあった、相手の立場たった言葉の使い方

し・・・「姿勢」時・場所・相手に応じた姿勢

○規律ある授業として「あ・じ・み・こ・し」を徹底し、チャイム授業（始まり、終わり）から各教科で、始まりと終わりの挨拶を徹底し（教員自らも）魅力ある授業を展開し、主体的に学ぶ姿勢を養う。

○生活指導において「あ・じ・み・こ・し」を基盤とし、挨拶、時間、身だしなみ、言葉遣い、姿勢など基本的な生活習慣を大切に、社会のルールやマナー、規範意識を身に付けさせる。

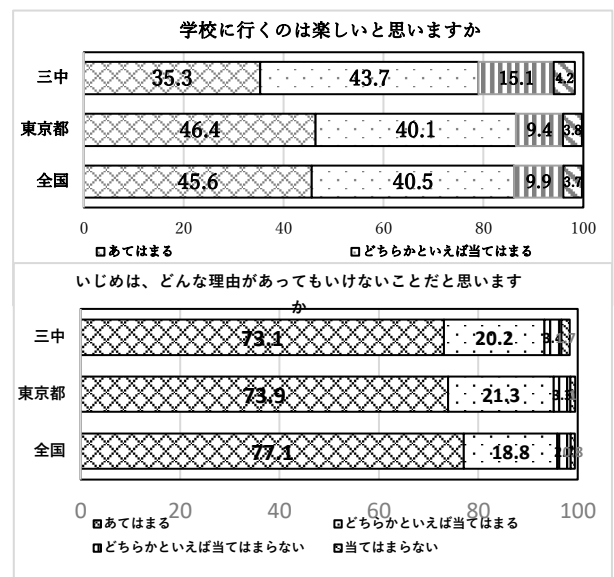
○生徒会、専門委員会を中心に、今までの活動で「あ・じ・み・こ・し」運動を取り入れ、自ら進んで、基本的な生活習慣を身に付ける態度を養う。

○保護者会、懇談会、地域行事等や学級、学年、学校便り等の発行物、学校ホームページ、Home&Schoolなどを活用し、保護者、地域への広報活動を通して理解、協力、支援を図る。

【評価及び今後の課題】

今年度、安全・安心・安定した学校づくりのため授業、行事、部活動、その他の学校生活及び放課後の地域での対応等、様々な課題に全職員で対応してまいりました。

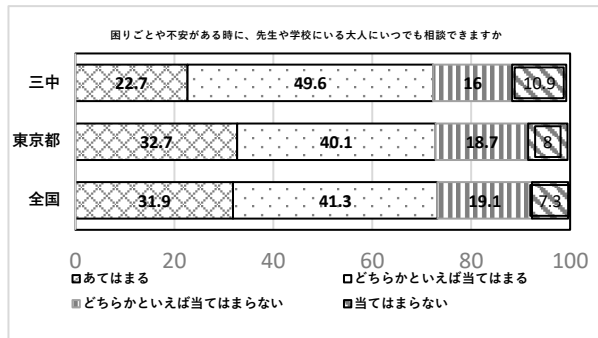
昨年度に比べ、学校及び地域での問題行動は、減少し保護者、地域からの問い合わせも少なくなっております。3年生の4月に実施した全国学力・学習状況調査の質問紙において「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目では、肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」）は、79%となっています。しかし、否定的な回答において、21%の生徒の学校に対する思いや願いをどのように受け止め、今後どのような対策を講じていくかが課題です。今年度は、登校時、休み時間、下校時の全職員での見守り



を行い、支援員の導入等で対応しています。

さらに、同調査で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目に対して、肯定的な回答は、93%となっています。いじめ根絶に向けての未然防止、早期対応に取り組むとともに「いじめは絶対に許さない」という風土を確立していきます。

また、同調査で「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という項目に対して「当てはまる」と回答した生徒は23%、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は50%となっています。学校生活に関わらず、不安や悩み、困りごと等を相談できるような体制づくり等にも課題が残ります。年間6回のアンケートの実施、毎日の日誌の書き込み等から教育相談につなげて未然防止、早期対応に取り組んでいき、今後も引き続き、『あ・じ・み・こ・し』を基盤に安全・安心な学校づくりに取り組んでいく所存です。



① 「考える力」(思考力・判断力・表現力)の育成に努めるために、教科の学習活動にとどまらず、総合的な学習の時間、学校行事、部活動等、様々な教育活動で実践する。

2 学年対象の清瀬市学力調査、3 学年対象の全国学力・学習状況調査について以下の結果となっています。

【清瀬市学力調査 (2 学年)】

教科	国語					数学					
	全体	基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現	全体	基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現	
校内平均正答率	63.3	66.5	44.2	75.6	54.1	54.3	60.8	28.0	61.4	31.8	
市内平均正答率	70.3	70.1	51.7	81.9	61.2	57.4	63.5	32.8	63.4	38.2	
全国平均正答率	73.4	76.2	56.7	85.3	64.4	57.7	63.2	35.7	62.9	41.3	
R7	校内一市内	-7.0	-3.6	-7.5	-6.3	-7.1	-3.1	-2.7	-4.8	-2	-6.4
	校内一全国	-10.1	-9.7	-12.5	-9.7	-10.3	-3.4	-2.4	-7.7	-1.5	-9.5
R6	校内一市内	-5.7	-5	-9.8	-4.1	-6.8	-5.4	-5.2	-6.5	-5.6	-5.2
	校内一全国	-5.1	-4.2	-9.7	-3.4	-6.2	-5.4	-4.2	-7.5	-4.7	-6.4

【全国学力・学習状況調査 (3 学年)】

教科	国語			数学			
	平均正答率	知識・技能	思考・判断・表現	平均正答率	知識・技能	思考・判断・表現	
三中	52.0	43.5	53.0	43.0	50.7	31.3	
東京都	57.0	51.7	58.1	53.0	58.3	45.4	
全国	54.3	48.1	55.3	48.3	54.4	39.1	
R7	三中一東京	-5.0	-8.2	-5.1	-10.0	-7.6	-14.1
	三中一全国	-2.3	-4.6	-2.3	-5.3	-3.7	-7.8
R6	三中一東京	-5.0	-5.3	-5.0	-8.0	-7.8	-9.7
	三中一全国	-2.1	-2.9	-1.8	-3.5	-3.6	-4.8

教科	平均IRTスコア	理科						
		IRTバンド	5	4	3	2	1	
		生徒人数	三中	4	21	46	41	6
三中	481	割合(%)	三中	3.4	18	39	35	5.1
東京都	506		東京都	5.5	21	44	26	3.6
全国	503		全国	6.2	20	42	27	4.2

今回の結果から、2 年生、3 年生ともに市内、都内、全国平均より下回っていることが分かります。特に、「思考力・判断力・表現力」の観点で、

他の観点と比較しても低い値になっています。このことから、授業スタンダードを作成し、日々の規律ある授業づくりから「考える力」(思考力・判断力・表現力)の育成を目指し校内で研修を進めております。「考えさせる授業」「ねらいから見通しをもたせ、振り返りのある授業展開」「学校図書館、ICT を活用」等から校内で研修を進めてきました。生徒の実態、各教科の課題等から分科会に分かれ、研究授業毎に分析、検討をしています。

また、学校評価アンケートから「規律ある授業を通して、ねらい・めあての提示、振り返りの時間設定など、教え方を工夫(個に応じた指導等)し、わかりやすい授業を行い、「基礎学力」の定着を図っている。」という項目に対して、肯定的な回答(「そう思う」「どちらかというそう思う」)で、保護者は84%(昨年度69%)、生徒は90%(昨年度86%)、教職員は92%となっています。昨年度と比較して保護者15%、生徒4%上昇して

います。授業スタンダードの定着を目指し、校内研修等を通して、授業展開（ねらい、見通し、振り返り、ICT等）を意識させ、分析、検証したことが成果に表れたと考えられます。

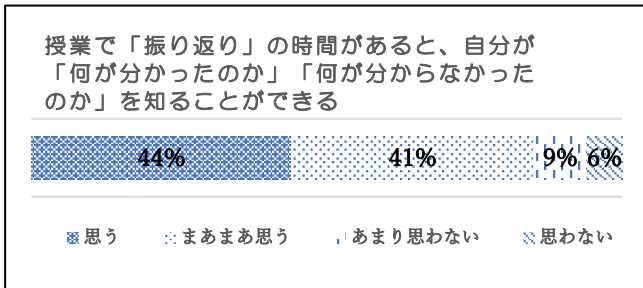
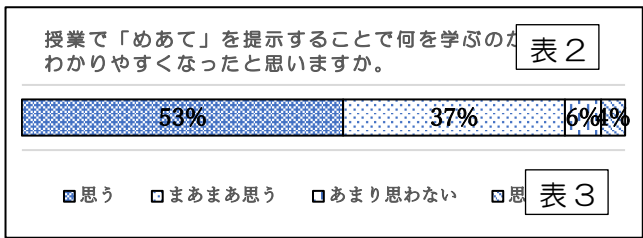
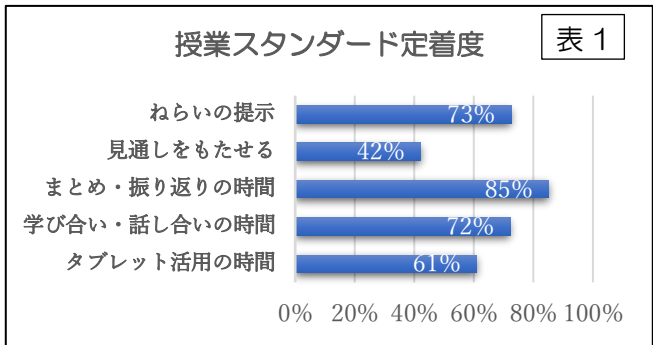
特に、10月実施した授業スタンダード強化推進月間において、以下の項目について生徒アンケートを実施しました。

- ねらいの提示（何を学ぶのか）
- 見通しをもたせる（どのように学ぶのか）
- まとめ・振り返りをしている（何を学んだのか）
- 学び合い・話し合いの場面（協動的な学び）
- タブレット活用の場面（個別最適化な学び）

その結果、表1より「ねらいの提示」を「振り返りの設定」について、73%、85%の定着度となっています。10月の授業観察時には、ほぼ全教室で提示され、時間確保がされていました。生徒にとって日々の積み重ねや印象度で回答しているのと同様です。

また、表2・3より「ねらいの提示」をすることや「振り返りの時間を確保」することで、生徒へ主体性をもたせ、課題への理解度につながっていることが分かります。さらに、ねらいから見通しをもたせ、タブレット活用で個別最適な学びと学び合い・話し合いの時間をより増やし協動的な学びをすることが「考える力」（思考力・判断力・表現力）の育成につげることができます。

今後、子供たちの現状、教職員の指導状況を踏まえ「主体的・対話的な深い学びの実装」に向けて授業スタンダードのブラッシュアップを図り、授業改善に向けて校内研修を進めてまいります。

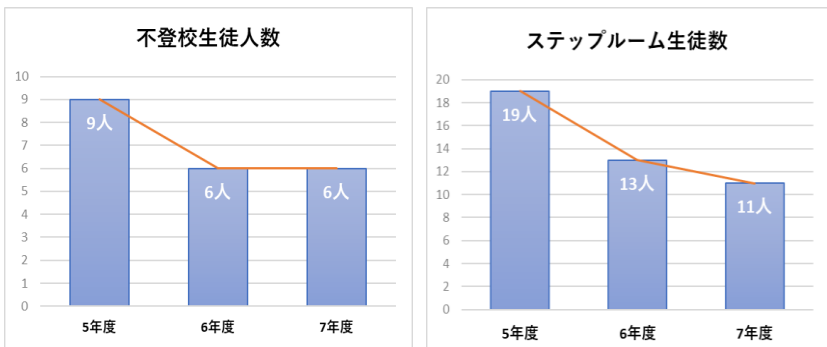


② 誰一人取り残すことのない教育活動を展開していく。

生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導、支援が求められている。本校では、特別支援教室（サポートルーム）、不登校対応教室としてステップルームを設置し、それ以外の不登校生徒、特性に応じた指導、支援が必要な生徒について毎月2回の校内委員会を開いています。

特別支援教育校内委員会では、今までの状況・支援内容等、現在の状況、外部機関との連携状況、授業での支援方法等のリストを作成し、報告、検討している。ステップルームにおいては、担当教員以外に、不登校支援員（3名）、学校と家庭の支援員（2名）、巡回不登校支援員（1名）を配置し「居場所づくり」「絆づくり」のため見守り体制を強化しています。

右図は、令和5年から令和7年までの不登校、ステップルーム在籍数の経年比較です。（令和7年12月現在 ただし、病気等の事由による長期欠席者は含まれていない。）不登校生徒は、令和5年度から減少したが、昨年と変化はありません。ステップルーム利用生徒人数は、減少傾向にある。これは、不登校傾向にある生徒の減少と考えられます。



不登校理由としては、集団生活への不適應、学習に対する不安、友人関係等が

あげられます。今後も教室に入れない生徒への居場所づくりや継続した学びを目的としたオンラインでの授業、ボランティア等の支援員の配置、教室環境の整備など様々な対策を講じていきます。

右図は、サポートルームの在籍人数の過去3年間の経年比較である。毎年、減少傾向にある。明確な事由は見つからないが、令和6年度から1年生の人数が減少している。小学校の時にきらり教室（特別支援教室）に在籍した児童が保護者の意向や制度上（原則の指導期間は1年間）から減少していると考えられます。入学後の状況で保護者、本人の意向から入室することもあるが多くはない。しかし、支援を要する生徒の人数が変わらず増加傾向にあるのが現状です。

	1年生	2年生	3年生	合計
令和5年度	8(7)	4(4)	3(3)	15
令和6年度	1(2)	7(8)	3(3)	11
令和7年度	2(0)	1(1)	4(6)	7

本校の特別支援教育は、特別支援コーディネーター、特別支援教室専門員、特別支援教育担当教員等が中心となって行っています。日頃の授業やサポートルームの状況等からリスト作成し、学年会や校内委員会で支援状況や支援方法を検討した内容を全職員で共有し、日々の教育活動に活しています。また、SC、特別支援巡回相談心理士、その他関係諸機関等との情報共有や指導、助言を受けています。

さらに、定期考査前等の放課後の補習教室や夏季休業中の学習教室、生徒会で開設している自習室において、学習や家庭学習のサポートを行っています。また、日本語指導についても3名の生徒が週1回の指導を受けています。今後も引き続き、未然防止も含めた適切で丁寧な対応、支援を行い、さらに多様な支援方法を探求しながら、誰一人取り残すことない教育活動を進めていきます。

3 地域と協働した学校経営の構築 ～「コミュニティ・スクール」に推進～

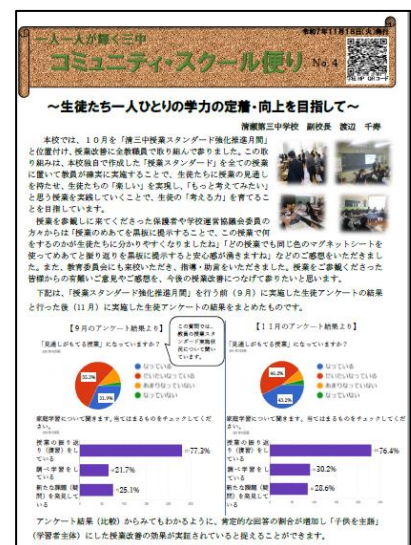
地域行事等には積極的に参加し地域貢献を行っています。地域づくりの会のイベント、旭が丘団地夏祭り、青少協のこども祭り、旭が丘団地自治会のイベント、デイサービスへの訪問演奏などで年間を通じて



吹奏楽部やボランティア生徒が参加しています。また、地域人材活用として、清瀬空手道連盟から講師を派遣した授業やNPO法人きよせろぼによる命の教育講演会、芝生事業で部活動と地域のサッカー団体との連携イベントなどで地域の方々の人材を活用して教育活動を展開しています。

また、様々な教育活動を随時、学校便り、学校ホームページやHome & School等で配信し、地域・保護者へ広報活動も行っています。さらに多くの子どもたちに貴重な体験や経験させることで、地域の方々から多くの感謝の言葉をいただき、達成感や自己肯定感を高めていき、主体的に「自ら問いをもち、課題を見つけ解決する力」「根拠をもって自分の考えを表現し伝える力」の育成してまいります。

今後もコミュニティ・スクールの推進から学校支援本部と連携し、保護者・地域と一体となって教育活動を進めていき、地域に信頼される学校づくりのために、地域と協働し総がかりで学校経営の骨子として取り組んでまいります。



【コミュニティ・スクール便り】

4 ICTを活用した校務改善の推進と学校運営の充実 ～「チーム三中」の確立～

様々な校務が堆積する中で、より効率的に校務改善を図るため、ICTを活用した学校運営に取り組んでいます。

- 朝の生徒の欠席、遅刻等の連絡を Home&School で活用する。
 - 電話対応時間の削減や留守番機能を活用し、勤務時間外の職務の適正化を図る。
 - テスト採点ソフトの活用で時間削減、ミスの防止する。
 - 生徒、保護者配布物（学級・学年・学校便り、その他）、各教科・部活動等の連絡などを Home&School で配信することで印刷時間を削減でき、放課後、休業日・休日の配信でタイムリーな連絡が可能。また、カラーでの写真、イラスト等の印字が可能のため見やすい配布物となる。そしてペーパーレス化によりコスト削減、SDGs 推進する。
 - 保護者とのコミュニケーションツールとしての学校評価の効果的な運用を図り、オンラインを活用した評価方法（Forms）を工夫して実施。しかし、保護者アンケートでは、昨年度の回答率が4割程度だったが、今年度は5割程度まで増加した。
 - 職員会議等の資料を校務用パソコンで共有することで、個人情報の管理及び印刷・配布時間の削減、ペーパーレス化につながっている。
 - Home&School で校外の学習活動（宿泊行事も含む）の様子をタイムリーに保護者へ配信できる。
- 以上のように、校務改善に努め、働き方改革につながりより強固な「チーム三中」を確立し、地域・保護者へ教育活動に関する多くの情報や報告を提供することで、開かれた学校づくりにつなげていく。
- 今年度の勤務時間外で月45時間以上の教員は、5割程度で、80時間以上の教員は平均2割程度になっている。「清瀬市立学校の管理運営に関する規則」において「1 箇時間外在校等時間に関する目標値として45時間以下の割合を100%にする」としている。月1回の定時退勤日を設けているが徹底はできてきない。今後は、月1回の定時退勤日を明確化するとともに、学校閉庁日と併せて設定していく。

さらに、業務内容の精選、縮小を図るため校内で委員会を設定し、来年度の計画、企画等に反映できるようにしていきます。また、学校運営協議会、保護者会等で、業務改善、働き方改革に向けて、理解、協力を得ていく所存です。

(2) 学校評価のまとめと分析

令和7年度 学校評価アンケート結果 ※ () 内は、昨年度の数値を示している															
	① ② ③ ④	保護者				生徒				教員					
		①	②	③	④	①	②	③	④						
確かな学力の向上	1	【基礎学力の定着】 学校は、規律ある授業を通して、ねらい・めあての提示、振り返りの時間設定など、教え方を工夫（個に応じた指導等）し、わかりやすい授業を行い、「基礎学力」の定着を図っている。（ICT機器の活用、補習学習の実施など）		24%	60%	14%	2%	52%	39%	6%	3%	61%	35%	4%	0%
		83.9% (69%)	16.1% (31%)	90.4% (86%)	9.6% (11%)	95.7% (92%)	4.3% (2%)								
豊かな心の育成	2	【思考力の育成】 学校は、ICT等を効果的に活用しながら生徒に「思考力」を育む教育を行っている。（授業スタンダード実施強化月間、読書活動の充実など）		17%	61%	20%	2%	47%	43%	7%	4%	39%	61%	0%	0%
		78.2% (62%)	21.8% (38%)	89.4% (92%)	10.6% (6%)	100% (100%)	0% (0%)								
豊かな心の育成	3	【道徳科および道徳教育の充実】 学校は、道徳科の授業を充実させ、生徒に人権尊重と規範意識を育む教育を推進している。（「考え、議論する道徳」の実践など）		21%	66%	10%	3%	59%	34%	4%	3%	61%	35%	4%	0%
		87% (87%)	13% (13%)	92.7% (92%)	7.3% (8%)	95.7% (100%)	4.3% (0%)								
豊かな心の育成	4	【いじめの未然防止と早期発見】 学校は、心得「あじみこし」を基本的な生活習慣としながら、いじめの未然防止や早期発見に力を入れている。（ふれあいアンケートや教育相談の実施、アセスの活用など）		16%	64%	16%	4%	43%	47%	7%	4%	70%	30%	0%	0%
		80.3% (81%)	19.7% (19%)	89.4% (84%)	10.6% (16%)	100% (100%)	0% (0%)								
健全な体の育成	5	【体力の向上】 学校は、「伝統文化・異文化への理解（空手・ハカ）」を深めた運動を取り入れ、保健体育科の授業や体育的行事等の充実によって、体力の向上を図っている。（外部講師との連携、個に応じた運動方法など）		25%	60%	14%	2%	52%	40%	5%	3%	65%	35%	0%	0%
		84.5% (82%)	15.6% (18%)	91.8% (92%)	8.3% (8%)	100% (100%)	0% (0%)								
健全な体の育成	6	【安全・健康・食に関する教育の推進】 7 学校は、食育の指導や食物アレルギー対応の徹底等を実施しながら生徒の健康管理に配慮し、安全や健康、食への意識を高め、自ら改善しようとする態度を育てている。（外部講師による講話など）		36%	59%	5%	1%	57%	36%	4%	2%	65%	35%	0%	0%
		94.3% (97%)	5.7% (3%)	93.7% (94%)	6.3% (6%)	100% (100%)	0% (0%)								
特別支援教育の充実	7	【特別支援教育の充実】 学校は、多様な特性をもつ生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の工夫を行っている。（特別支援教室「サポートルーム」等を含む）		32%	61%	5%	3%	51%	41%	4%	4%	74%	26%	0%	0%
		92.2% (79%)	7.8% (21%)	92.1% (91%)	8% (9%)	100% (100%)	0% (0%)								
特別支援教育の充実	8	【登校しづり・不登校生徒への支援、安心して通える学校づくり】 学校は、すべての生徒が安心して過ごせる「居場所（学ぶ場・学級）」づくりに努め、学びをとめない環境を整備している。（ステップルームの活用、フレンドルームやフリースクールとの連携など）		25%	59%	14%	3%	43%	45%	8%	4%	65%	35%	0%	0%
		84% (62%)	16.1% (38%)	88.1% (82%)	11.9% (18%)	100% (100%)	0% (0%)								
地域とのつながり	9	【地域と連携した教育の実現】 学校は、地域人材を活用した教育を推進し、PTA活動、青少協、地域団体等との連携や地域行事に参加するなど、「地域と協働した学校」の実現を図っている。（きよせラボによる「命の講話」、地域イベントやお祭りへの参加など）		25%	67%	8%	1%	43%	45%	8%	4%	48%	52%	0%	0%
		91.7% (86%)	8.3% (14%)	88.1% (51%)	11.9% (49%)	100% (92%)	0% (0%)								
地域とのつながり	10	【情報発信と教育活動への参画】 学校は、学校教育全体に関わる経営方針や教育活動の内容について学校だよりや学年・学級だより、ホームページ、Home&school等で伝える努力をしている。		42%	53%	5%	1%	55%	39%	4%	2%	78%	22%	0%	0%
		94.9% (87%)	5.2% (13%)	94.4% (88%)	5.6% (13%)	100% (100%)	0% (0%)								

1 学校は、規律ある授業を通して、ねらい・めあての提示や振り返りの時間設定など、教え方を工夫し、(個に応じた指導等) わかりやすい授業を行い、「基礎学力」の定着を図っている。(ICT機器の活用、補習学習の実施など)

肯定的な回答(「そう思う」「どちらかというと思う」)で保護者 84%、生徒 90%の回答で概ね良好な評価となっています。10月に行った授業スタンダード強化月間で、「ねらい」「振り返り」の提示および内容を吟味したことで、「わかる授業」へ一歩進んだと考えています。しかし、学力検査の結果からも基礎学力の定着には課題もあり、今後も規律ある授業のもと、個に応じた指導方法、わかる授業に向けて研修を重ねてまいります。

<経年比較>

肯定的な回答が保護者 15%、生徒 4%が上がっています。保護者への取組内容の報告や生徒へのアンケート調査等で、周知されてきている結果と考えています。

2 学校は、ICT等を効果的に活用しながら生徒に「思考力」を育む教育を行っている。(授業スタンダード実施強化月間、読書活動の充実など)

肯定的な回答(「そう思う」「どちらかというと思う」)で保護者 78%、生徒 92%の回答で概ね良好な評価となっています。しかし、4月に実施した3年生の全国学力・学習状況調査の「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問からは、上位は(1日に複数の授業で活用、1日に1回のくらいで活用)9.2%でした。今年度は、「デジタルを活用したこれからの学び」の実践校として校内研修等で研究授業を行い、活用率が増加したと考えられます。さらに、デジタルを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けて取り組んでいきます。さらに、読書活動の推進を強化し、思考力・判断力・表現力の育成を目指し意図的・計画的に進めてまいります。

<経年比較>

保護者は昨年度より16%高い回答となっています。授業参観以外に授業スタンダードへの取り組みについて学校便り、学校ホームページやH&Sでのコミュニティ・スクールだより発行により周知された結果であろうと考えます。生徒については低い評価となっているが、昨年度が非常に高い値であったため、89%の値は妥当であると思います。

3 学校は、道徳科の授業を充実させ、生徒に人権尊重と規範意識を育む教育を推進している。(「考え、議論する道徳」の実践など)

肯定的な回答(「そう思う」「どちらかというと思う」)で保護者 87%、生徒 93%の回答で概ね良い評価となっています。生徒の実態、育てたい道徳心から全体計画、年間指導計画を作成しています。また、道徳科の授業においても、ローテーション化した授業により若手教育の育成にもつながっていることや、考え、議論する道徳の授業を踏まえ、ワークシート、発問の工夫、タブレット活用、他者との議論展開を取り入れることが良好な評価につながっていると考えます。

<経年比較>

昨年度より概ね変化はない。研修を重ね、より道徳的価値観・実践力の向上のため授業改善に努めています。

4 学校は、心得「あじみこし」を基本的な生活習慣としながら、いじめの未然防止や早期発見に力を入れている。(ふれあいアンケートや教育相談の実施、アセスの活用など)

肯定的な回答(「そう思う」「どちらかというと思う」)で保護者 80%、生徒 89%の回答で概ね良い評

価となっている。安心・安全・安定した学校づくりの根幹として心得「あ・じ・み・こ・し」を全教育活動に取り入れ基本的な生活習慣の定着を目指しています。いじめ0を目標とし、開発的なアプローチ(年間通じて様々な行事、体験活動、授業等)として『命の教育講演』、『赤ちゃんのチカラプロジェクト』や『認知症サポーター養成講座』、がん教育等や道徳科の授業でいじめの芽を摘み、子どもの「良さ」を引き出し、自己肯定感、他者への思いやり、社会性を育てています。また、予防的アプローチ(未然防止のための手立て)としてアセスの分析、ふれあいアンケート(年間6回)を実施、教育相談期間の設定、校内体制(チーム学校)の構築など「いじめは絶対に許されない」という意識を全員が持ち、「あ・じ・み・こ・し」を基盤に規範意識を高め、学校・家庭・地域全体で醸成し、安心・安全な環境を創り、いじめが起きにくい土壌を作ることで未然防止に努めています。さらに問題解決的アプローチとして、予防的アプローチより早期発見・早期対応を基本とし、いじめへの認知、いじめ対応校内委員会を中心に、学校・家庭・地域・専門機関の連携のもと、組織的・多角的に行われることを原則としています。これらの事からいじめ撲滅に向けて今後も取り組んでまいります。

<経年評価>

保護者は昨年度と変化はない。生徒については、昨年度より5%良い値となっています。引き続き、安心、安心、安定した学校づくりに努めていきます。

5 学校は、「伝統文化・異文化への理解(空手・ハカ)」を深めた運動を取り入れ、保健体育科の授業や体育的行事等の充実によって、体力の向上を図っている。(外部講師との連携、個に応じた運動方法など)

肯定的な回答(「そう思う」「どちらかというと思う」)で保護者85%、生徒92%の回答で概ね良い回答となっています。ハカ、空手は本校の伝統文化であり、保護者・生徒の関心も高いものになっています。また、日頃の保健体育の授業では体力テストの結果を分析した指導内容を取り入れています。今回の調査時に、保健体育科の授業で12分完走を行っているため持久力向上の観点から生徒の回答が高かったことも予想ができます。

<経年分析>

保護者、生徒とも大きな変動はなかったが、体力テストの結果が全国平均より下回っている種目が多いため、今後も意図的、計画的な体力向上に向けて推進してまいります。

6 学校は、食育の指導や食物アレルギー対応の徹底等を実施しながら生徒の健康管理に配慮し、安全や健康、食への意識を高め、自ら改善しようとする態度を育てている。(外部講師による講話など)

肯定的な回答(「そう思う」「どちらかというと思う」)で保護者94%、生徒94%の回答で概ね良い結果となっています。養護教諭、栄養士、管理職を中心に健康管理、安全な食の提供、食育の推進、危機管理体制など、学校生活の安心・安全で無事故な健全育成と健康、食への関心を高めていきます。特に今年度は、校外学習(1年川越学習、2年東京学習、3年修学旅行)で昼食時のアレルギー対策を強化するため、お弁当持参、大学等の学食、指定された食事処等に設定し、事前にアレルギーへの配慮や職員配置を行い徹底しました。

<経年分析>

保護者の評価は、3ポイント低くなっている。引き続き、健康、食への関心を高めていきます。

7 学校は、多様な特性をもつ生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の工夫を行っている。(特別支援教室「サポートルーム」等を含む)

肯定的な回答(「そう思う」・「どちらかというと思う」)で保護者92%、生徒92%の回答で概ね良い評価となっています。特別支援コーディネーター、特別支援教室専門員、特別支援教育担当教員等を中心に、日

頃の授業、サポートルーム状況等からリスト作成し、学年会や校内委員会で、支援状況や支援方法を検討していきます。また、SC、特別支援巡回相談心理士、その他関係諸機関等との情報共有や指導、助言を受けていく。今後も誰一人取り残さない学校づくりを推進してまいります。

<経年比較>

保護者の肯定的な回答が昨年度より肯定的な回答が 13 ポイント上がっている。小学校の「きらり」「あおぞら」等の特別支援教育が推進され、保護者への理解や関心が高まったことも要因であると考えられます。

8 学校は、すべての生徒が安心して過ごせる「居場所（学ぶ場・学級）」づくりに努め、学びをとめない環境を整備している。（ステップルームの活用、フレンドルームやフリースクールとの連携など）

肯定的な回答（「そう思う」「どちらかというと思う」）で保護者 84%、生徒 88%の回答で概ね良い評価となっている。本校では、「誰一人取り残さない学校づくり」のための方策として、不登校対策室として「ステップルーム」を令和 2 年から開設しています。過去 3 年間で不登校出現率が減少していることもその成果となっています。教室に入れない生徒への居場所づくりや継続した学びを目的としてオンラインでの授業、ボランティア等の支援員の配置、教室環境の整備など様々な対策を講じています。今年度は新たに支援員が配置され、見守り体制を強化しました。その他にも、欠席生徒へのケアや聞き取り等で未然防止、早期発見を行い、スクールカウンセラー等の活用で早期対応を行っています。また、関係機関等の連携も進めていき、家庭との情報共有を密にし、魅力ある学校づくりに向けて取り組んでまいります。

<経年比較>

昨年度より肯定的な回答が保護者 22%、生徒 6 高くなっている。学校ホームページや Home&School で情報発信が影響したと考えています。

9 学校は、地域人材を活用した教育を推進し、PTA活動、青少協、地域団体等との連携や地域行事に参加するなど、「地域と協働した学校」の実現を図っている。（きよせラボによる「命の講話」、地域イベントやお祭りへの参加など）

肯定的な回答（「そう思う」「どちらかというと思う」）で保護者 92%、生徒 88%の回答で概ね良い評価となっています。PTA 活動で入学式、卒業式、運動会、合唱コンクール等の学校行事の受付等、制服等のリサイクル活動で保護者への関心も高まったと予想できます。また、学校便り、学校ホームページや Home&School 等で配信しているため保護者への周知が進み、高い評価を得ています。生徒は、全校朝礼での講話や昇降口の掲示物の効果もあり昨年度より高い値となったと考えています。

<経年比較>

昨年度よりも保護者は 6 ポイント、生徒は 37 ポイント高くなっている。保護者・地域との協働した学校づくりを目指し社会総がかりで学校経営を進めていきます。

10 学校は、学校教育全体に関わる経営方針や教育活動の内容について学校だよりや学年・学級だより、ホームページ、Home&School 等で伝える努力をしている。

肯定的な回答（「そう思う」「どちらかというと思う」）で保護者 95%、生徒 94%の回答で概ね良い評価となっています。学級、学年、学校便り等は、定期的に発行しています。学校ホームページも日々の学校生活の様子や給食の献立、行事予定等も毎月掲載しています。また、Home&School の活用も学年便りやその他の発行物、校外行事等の様子など保護者へ提供しています。今後も、業務改善、ペーパーレスの観点からの有効的に活用していきます。ただし、学校評価アンケート調査の回答率が 5 割程度にとどまっている状態で

す。昨年度よりは回答率は上がっているが、今後は調査内容、方法の改善を図ってまいります。

<経年比較>

保護者の回答で昨年度より8ポイント、生徒の回答は、7ポイント高くなっていて。今後も学校ホームページやHome&School等で情報発信していきます。

(3)生徒授業アンケート結果と分析

	① ② ③ ④	生徒			
		①	②	③	④
1	授業開始のチャイム前に着席している。	69%	30%	1%	0%
		99% (99%)		0.9% (1%)	
2	忘れ物などなく、授業準備ができている。	50%	44%	5%	1%
		93.8% (94%)		6.2% (3%)	
3	私語をしたり、寝たりしないで真剣に授業を受けている。	37%	46%	15%	2%
		83.1% (82%)		16.9% (18%)	
4	発言や質問をするなど積極的に授業に参加している。	22%	36%	31%	1%
		58.4% (55%)		31.5% (45%)	
5	ノートは板書だけでなく先生の言葉や自分の気付きなどをメモしている。	30%	34%	25%	11%
		64.3% (61%)		35.7% (39%)	
6	先生の指示や指導に沿って授業を受けている。	64%	33%	3%	1%
		96.5% (96%)		3.5% (4%)	
7	わからないことは、先生へ積極的に質問などして解決に努めている。	27%	40%	26%	7%
		67.2% (58%)		32.8% (42%)	
8	家庭学習（宿題、予習、復習など）は、計画的に毎日行っている。	20%	30%	34%	16%
		49.6% (52%)		50.3% (48%)	
9	授業の中で「わかった。できた。」と学ぶ喜びを感じることがある。	49%	37%	9%	5%
		86.3% (77%)		13.7% (23%)	
10	ICTを活用した授業は自分の学力向上（基礎・基本の定着や深い学び）に役立っている。	42%	46%	9%	3%
		88% (82%)		12% (18%)	
11	地域の方々の協力を得ながら学習する機会は、自分にとって充実した学びになっている。（例：1年生歯科講話、2年生職業講話、3	53%	38%	6%	4%
		91%		9%	

生徒授業アンケートの経年比較から、1～11までの項目で8以外については、昨年度よりポイントが上回っています。

今年度、生徒自身が「あ・じ・み・こ・し」を意識した授業に対する姿勢と教員が授業スタンダードから授業規律を意識した結果が表れています。また、生徒会活動での各専門委員会や各学年でのチャイム授業、授業態度調査、置き勉チェック、定期試験前の予想問題作りなど様々な取り組みに良い影響となっています。

しかし、「4発言や質問をするなど積極的に授業に参加している」「5ノートは板書だけでなく先生の言葉や自分の気付きなどをメモしている」「7わからないことは、先生へ積極的に質問をしている」「8家庭学習は計画的に毎日行っている」の項目については、昨年度同様に低い自己評価となっており、授業に対する興味関心や好奇心、探究心が不足していることが原因です。これは、生徒自身の課題であるとともに、授業者が引き出さなければならぬ授業展開が求められています。ねらいから見通してある授業づくり、教材や教具の工夫、発問の仕方、板書の工夫、デジタルの活用などの研究を進めていく必要があります。

特に「8家庭学習」については、喫緊の課題である。学校でもマイルノート等の点検活動を行っているが定着していない状況です。小中で連携し、9年間の学びの習慣として家庭学習を課題に検討していきます。

「9授業の中で「わかった。できた。」と学ぶ喜びを感じることがある。」「10 ICT を活用した授業は自分の

の学力向上に役立っている。」は、概ね良い結果となっているが、授業での「わかった、できた」と学ぶ喜びを味わえる授業はさらに小・中学校で共通の課題です。「わかった、できた」と感じた時に達成感、成就感へとつながり、先に述べた生徒の授業への主体的な取り組みの原動力となると考えます。